

第4回仙台市ダイバーシティ推進会議 議事録

I. 会議概要

日 時 令和6年12月26日(木) 18:00~19:30

会 場 仙台市青葉区中央 1-3-1 AER30階 TKP ガーデンシティ仙台 ホール 30A

出席者 (委員)

大隅委員長、石井副委員長、宇田川委員、及川委員、小野委員(オンライン)、
小林委員、小宮委員、田村委員、ビッティ委員、福田委員、本図委員
(仙台市)

筒井まちづくり政策局ダイバーシティ推進担当局長、
湯村まちづくり政策局次長、藤原政策企画部長、大沼ダイバーシティ推進課長

II. 議事

○山口企画推進係長

皆様、本日はご多用のところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

定刻となりましたので、ただいまから第4回仙台市ダイバーシティ推進会議を開会いたします。

本日の司会を担当いたします、仙台市まちづくり政策局ダイバーシティ推進課の山口でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず初めに会議の運営について、お知らせとお願いがございます。

本会議は公開で行うこととしております。また、会議録作成のため、発言される際はマイクをご使用ください。

続きまして傍聴席の皆様へお願いです。

会議中の発言や会話、無断での録画録音はご遠慮いただき、円滑な会議運営にご協力くださいますようお願いいたします。

本日、小野委員はオンラインでの参加、マリ委員は所用のため欠席となります。

続きまして、お手元の資料についてご確認をお願いいたします。

資料、次第、資料1から3、その他、参考資料といたしまして、中間案に関するパブリックコメントの実施結果、ダイバーシティ推進に関するデータブックについて、前回の発言要旨をお配りしております。不足している資料がありましたらお知らせください。よろしいでしょうか。

また、前回会議でお知らせしました、11月16日開催の仙台ダイバーシティフェスタ2024には、延べ400名を超える方にご参加いただいたところでございます。本日は会場内に、イベントで市民の皆様とともに作成したアート作品やパネルなどを展示しておりますので、お帰りの際にご覧ください。また、本日、委員の皆様の上にクリアファイルをお配りしておりますが、こちらはイベントの際にアンケートにご協力いただいた方に配布したものでございます。

小野委員の所属されている株式会社ヘラルボニーの契約作家であるアーティストのアートを採用し作成しております。資料のお持ち帰りの際などにご使用ください。

続きまして、開会にあたり、大隅委員長よりご挨拶を頂戴したいと存じます。大隅委員長よりよろしくお願いいたします。

○大隅委員長

皆さんこんばんは。

年末の暮れも押し迫ったときに、しかも遅い時間にお集まりいただくということで大変恐縮でございますけれども、ありがとうございます。

多数の方に最後の会議にご参加いただけること、委員長として大変嬉しく思っております。

また実は一昨日、本学の国際卓越研究大学の計画が認定されたということで、約2年がかりだったのですが、ようやく船出ということにもなりました。その中でもダイバーシティの推進ということは非常に重要な方針の1つに掲げているところでございます。仙台市ともぜひ連携しながら進めていきたいと思っております。

では、私の方でしばしの間、進行を務めさせていただきますので皆様どうぞよろしくお願いいたします。

本日、先ほども申しましたが、いよいよこれで本当に最後という会議になりました。

前半は、この指針の最終案素案につきまして意見交換を行います。

後半は、これまで4回開催してきた会議全体を振り返っていただきまして、そのご感想、あるいは指針に基づいてダイバーシティまちづくりを仙台市が進めるということにつきましてのご意見、あるいはご期待などについて、皆様からコメントを頂戴できればと思っております。

お手元の次第3の最終案素案に関する意見交換に進みたいと思います。

まず事務局の方から、資料3、あるいは参考資料等の重要な点をご説明いただいて、その後、委員の皆様からご意見をいただきたいと思っておりますけれども、そのような進め方でよろしいでしょうか。

(異議なし)

では、大沼課長からご説明よろしくお願いいたします。

○大沼ダイバーシティ推進課長

それでは資料3の最終案素案についてご説明いたします。中間案の段階から、パブリックコメントで頂いた意見や、議会でのご議論、委員からの個別のご指摘などを反映させ、まとめたものです。お手数ですが、参考資料1のパブリックコメントの実施結果も併せてご覧いただきたいと存じます。

はじめに、パブリックコメントの実施結果を説明させていただきます。参考資料1の1ページ目をご覧ください。10月22日から11月25日まで実施し、期間中に行った仙台ダイバーシティフェスタ 2024 でも周知を図り、意見をいただいたところです。

下段の2ページをご覧ください。意見提出件数ですが、59名・団体の方から計98件のご意見をいただき、その内訳は表のとおりです。

3ページからは98件すべての意見の概要と、これに対する本市の考え方をまとめ、先日、仙台市議会総務財政委員会に報告のうえ、公表したものです。

ここからは指針最終案に向けて修正が必要と考えているご意見を中心に説明いたします。

3ページをご覧ください。指針全体に関するご意見は22件です。No.1のように、企業活動の継続にはダイバーシティが必要であるといった、ダイバーシティ推進の必要性に関するご意見を多くいただきました。

5ページNo.8ですが、ダイバーシティ推進が市民や市民生活に与える好影響や効果に関する記載を求めるご意見があり、指針に説明を追加したいと思います。修正の内容は後ほどまとめてご説明いたします。

6ページをご覧ください。No.14では、ダイバーシティ推進会議の委員構成を中間案と併せて見たかったとのご意見をいただいております。指針に、委員名簿や審議経過を掲載することとします。また、22件の中には、8ページNo.18にありますように、外国人労働者の増加による社会の分断や、安心安全が損なわれることへの懸念、多様性の推進に関連し各国で生じている混乱や対立に関する指摘など、ダイバーシティの推進には慎重であるべきとのご意見も複数ございます。推進会議の中でも、こうした不安や懸念に対する丁寧な対応の必要性を指摘いただき、指針にも盛り込んでいますが、市民の皆様の安全・安心を基本としながら、誰もが安心して住み続け、活躍できるまちを目指してまいりたいと考えております。

次に、17ページをご覧ください。基本的理念・視点に関するご意見は53件です。ここでは、具体的な施策の進め方についてのご意見が多く寄せられました。例えば、No.23では、当事者に光を当ててその力を生かしてほしい、もっと女性が活躍できる仙台になってほしい、No.25では、ユニバーサルデザインの導入に関するご提案など、幅広いご意見があったところです。指針は、施策を進めるうえで考慮すべき視点をまとめたものですが、頂いたご意見は、関係部局と共有し、施策を進める際の参考にしてまいります。

また、20ページをご覧ください。No.34では、本市の最近の動向に掲げた事業例に関し、より適

切な事例の指摘がありましたので、修正したいと存じます。

続きまして、37ページをご覧ください。推進体制等に関する意見は5件です。No.79やNo.80では、ダイバーシティ推進にあたり、職員の理解促進を図る取り組みが不可欠とのご指摘があり、指針に職員研修の実施等を明記したいと存じます。

続いて39ページをご覧ください。その他のご意見は18件です。No.81やNo.83をはじめ、中間案の文章表現や掲載している図などに分かりにくい点があることのご指摘をいくつかいただいているほか、カタカナ語や補足の必要な用語について解説が必要とのご意見があり、ご指摘を踏まえ、加筆修正をいたします。

次に、中間案からの主な修正内容をご説明します。資料3をご覧ください。オレンジ色のマーカー部分が修正箇所です。

1ページおめくりいただき、冒頭部分でございます。2段落目ですが、中間案では「社会環境が大きく変化する中」の後に、海外からの留学生や研究者の増加の話がつながっており、パブリックコメントでも市民生活への影響・効果の記載が薄いことのご指摘がありました。これを踏まえ、2段落にマーカーをした一文を追加し、まず市民生活全般に関わる部分、加えて外国人住民が増えるなど、多様性が増すといった今後の変化に言及する形としました。

次に、3段落目のマーカー部分です。先ほど説明したとおり、パブリックコメントでは、ダイバーシティ推進に伴う懸念や不安についてもご意見・ご指摘がありました。こうした懸念などに対しては、丁寧な説明・対話・交流を通じて、全体として調和の取れた状態を目指していくことが重要と認識しておりますので、「調和のとれた」の文言を追加したところです。

続いて、1ページ、2ページの「仙台のまちづくりとダイバーシティ」です。第3回の推進会議で「世界を見据えたダイバーシティ」の表現に関して、委員の皆様より多くご意見をいただいたことから、中間案において2ページ右下の囲みの文言を「仙台らしいダイバーシティまちづくり」に修正しました。また、年表の中の脱スパイクタイヤ運動に関する記述ですが、中間案では1985年の県の条例制定を記載していましたが、市の動きを掲載すべきというご意見がありました。ここについては、1983年の市の対策本部設置等に記載内容を変更したほか、東北大学の国際卓越研究大学への正式認定や、新たに本市が認定を受けたMCR2030レジリエンス・ハブについても加筆修正しております。

続いて3ページです。田村委員のご協力をいただき図1・図2を修正しています。図1については、パブリックコメントで、障害には目に見えやすいものと見えにくいものがあるのではないかとという指摘があり、深層・表層の境目にも属性を配置するなどの修正を加えています。

図2については、中間案では同化からすみ分け、共生へと矢印を使って段階が上がっていくような表現をしていましたが、パブリックコメントにおいて、これらは必ずこの順番で進むものではなく、行き来するものではないかという指摘がありました。これを踏まえ第1回会合で田村委員より話題提供があった4象限の図をもとにしながら、文章表現も合わせて修正しております。次に、4ページ(3)ダイバーシティの効果をご覧ください。パブリックコメントにおいて市民や市民生活に与える好影響や効果に関する記載を増やしてはどうかとのご意見に対応し追記しております。

続いて8ページをご覧ください。それぞれの視点に関わる取組の例示についてですが、前回の会議でご覧いただいた中間案素案では、①②といった項目ごとに関連する取組例を掲げており、会議の中でも多くのご意見をいただいたところです。中間案の段階では、今ご覧いただいているように、視点ごとに「本市の最近の動向」をまとめて掲載し、その次に「目指す方向性」として各項目を掲載するという形に整理しました。

続いて、17ページ、「5. 推進に向けて」です。パブリックコメントでは、ダイバーシティ推進に関する職員理解の重要性や、研修等の必要性について複数のご意見がありました。中間案では本部会議とデータブックのみの記載でしたが、「(1)実践に向けた意識の醸成」の項目を新設し、職員研修の実施等の記載を厚くいたしました。

なお、本日は、データブックに掲載する指標の例示を参考資料2としてお配りしております。具体的な項目や比較方法などの設定は、次年度に行いますが、イメージとしてご覧いただければ

と思います。

次に、18ページ以降ですが、パブリックコメント等のご意見を受けて、用語解説と指針策定の経過、推進会議の委員名簿を追加しております。

推進指針の修正箇所については以上でございます。

このほか、5ページ、10ページ、12ページ、14ページ、16ページの5箇所に、コラム欄を設け、第1回会議の田村委員の話題提供で触れられた「3つのT」や「イカロスの墜落の絵」のほか、ユニバーサルデザインやダイバーシティに関連した世界の取組事例を掲載しています。グレーの部分は写真等が入る予定です。

また14ページには、居場所と交流・協働の関係について、前回会議の議論なども参考に「多様性から生まれる好循環」のイメージ図を追加しております。

最後に、今後の予定ですが、本日のご議論を踏まえ、最終案を調整し、予算も含めた次回議会のご議論も経まして、来年3月末の指針策定を予定しています。また、大隅委員長からご指摘いただいた、指針英語版の作成を進めるほか、今後の重点的な取組も別途取りまとめてまいります。説明については以上でございます。

○大隅委員長

ありがとうございました。

それでは、ただいまご説明がありましたパブリックコメントや指針の最終案素案の内容につきまして、委員の皆様からご質問やご意見をいただければと思います。

いかがでしょうか。

では宇田川委員、お願いいたします。

○宇田川委員

内容についてのコメント2点と、文言について2点気付いた点に触れさせていただきます。

3ページの、新しく記載された図1に「所属」という言葉がありますが、「所属」というと一般的には、何か組織の名前などと私は理解したのですけれども、そうであると、この深層にあるということがよくわかりませんでした。ですので、この「所属」の意味がどういうことなのか、あるいは場所の問題なのかもしれないのですけれども、そういったところを教えていただきたいと思います。

2点目は、同じページの「(2)社会におけるちがいの受け入れ方」、新しく入ったところですが、こちらのタイトルと図2のタイトルに「社会」という言葉が出てきているのですが、本文中には「組織や社会」という言葉で3回出てきています。「組織」という言葉は秩序だった団体とか集団というイメージがあると思うのですけれども、必ずしもここで記載するのは、組織固有の問題ではないと思いましたので、「組織」という言葉が必要ではないのではないかと考えたのと、もし入れるとすれば、「社会」の後に入れる方が良いかなと思いましたので、コメントをさせていただきます。

あとは細かい点ですが、文章の構成の問題として、同じく8ページのところですね、新しく入ったところが、条例に基づくバリアフリー制度や、条例に基づき、何々を進めてきたほか、というような書きぶりにされていて、多分文の構成としては「バリアフリーの整備」と「取り組み」というのが並立関係にあるのかなと思ったのですけれども、条例が「基づく」と「基づき」という別の表現になっているので、「バリアフリー整備を進めてきた」という言葉が並列関係に読めるかなと思いましたので、そうすると、体言止めと動詞のちがいが気になって、ちょっと長いので読みにくいかなというふうに思いました。

例えばなののですけれども、途中で区切って、「人にやさしいまちづくり条例に基づき、バリアフリー整備を進めたほか、それぞれについて取り組みを行ってきた。」で切って、「また…」などで続けられると、もう少し読みよい文章になるのではないかなと思いました。

最後も似たようなご指摘になってしまうのですけれども、17ページのところも、構成が若干気になりました。ダイバーシティまちづくりの推進にあたっては、「視点を織り込んでいくほか…多

様性への理解や配慮が必要となります」というところが、「織り込んでいく」というのと「多様性の理解や配慮が必要になる」というのが、主語と述語の関係を見ても、文書として並立関係にならないのかなというふうに理解いたしました。「ほか」でつないでいるのが少しわかりにくいので、例えば、こちらも文章を区切って、「ダイバーシティの視点を織り込んでいきます。また…」などにされて、「多様性の理解や配慮が必要となるため、学びの機会を設けていきます」などとした方が、日本語として自然に読めるかなと思いますので、ご指摘をさせていただきます。所用がございまして、コメントなどは後程メールなどでお送りさせていただきたいと思います。こちらで一旦失礼させていただきたいと思います。

○大隅委員長

宇田川委員ありがとうございました。

続いて、オンラインの小野委員にお話いただいてもよろしいでしょうか。

○小野委員

私は第3回会議に参加することが叶いませんでしたので、議事録ですとか今回の会議資料から最新の情報を確認させていただけておりました。

パブリックコメントの中からもいくつか、例えば「いきなりちがいを受け入れると押し付けられるように感じる」といったご意見もありましたけれども、そういった、「ちがいは受け入れるものだ」とするのではなく、「仙台市らしいまちづくり」を重視する形に文言等も変えられてきたところで、今非常にしっくりきているところでございます。

私からはこちらの最終案素案については、変えたほうがいいのではないかとということでは現状特段ございませんので、一度お戻しいたします。

○大隅委員長

はい。ありがとうございました。

続きましていかがでしょうか。

では本図委員お願いいたします。

○本図委員

今回、コラムが入ってとてもわかりやすくなって、中間案のときよりさらに良くまとめていただいていると思います。ありがとうございます。

もしまだコラムにスペースがあれば、この間、大隅先生よりお話のあった、ジェンダード・イノベーション、あれを私は存じ上げなかったもので、取り上げてはどうかと思います。パブリックコメントにも、外国人がたくさん増えると、治安が悪くなるというようなニュアンスの意見があって、反対だとまで書いてらっしゃるコメントもあったかと思うのですが、やはり、経済の活性化になる、発展につながるということは、ダイバーシティに不安感をお持ちの方に対して、説得力に繋がるのではないかなと思います。そういったジェンダーの視点が、経済の発展や革新というところで有効だという知見がすでにあるという点はコラムに入っても良いのではないかなというふうに思いました。スペース的に可能であれば、ご検討いただけたらと思います。

冒頭の仙台市長の巻頭言も、格調高い文言にさせていただいてありがとうございました。今回追記いただいた最初の方ですけど、もし可能なら、私としては、安全から入らず、「安心・安全」にさせていただけると良いと感じています。安全は物理的な安全で、安心は文化の壁とか、心理的障壁も含んでいて、先ほどのダイバーシティに不安を感じるというご意見も踏まえて、物理的な安全ということだけではなく、私たちの心理的な障壁をまず意識していきましようというような点で、「安心・安全」にさせていただければと思いました。

○大隅委員長

ありがとうございました。

コラムの追加のあたりのところはちょっと色々なスペースの問題もあったりするかもしれませんが、
けれども、可能な限りお願いできればと思いました。

いかがでしょうか。

及川委員。

○及川委員

コラムの話が出たので、1点コラムについてです。全体としてはすごくわかりやすくなりましたし、
図解とコラムが入って読みやすくなって、いろんなご理解の幅がある皆さんにも、理解しやすくな
ったのではないかとこのように受け止めています。

ただ1点、このコラムの「イカロスの墜落」のところが少しわかりにくいなと思いました。太陽に向
かってイカロスが飛んで、落ちた足を誰も見つけなかったということなのですけど、要素が2
つあるので、もし今の本図委員のお話をに入れていただけるのであれば、例えばこのちょっとわ
かりにくいイカロスのところを、もっと仙台市らしいコラムに変えていけるとか、そのようなチ
ャレンジもありなのではないかと思いました。

○大隅委員長

ありがとうございます。

仙台市らしいコラムというのが、またハードルを高くされたかもしれませんが、まずは考えてみ
ていただければと思います。

他にいかがでしょうか。

福田委員お願いいたします。

○福田委員

事前に資料をいただいていた、率直に感じたのは、パブリックコメントすごいなと。辛辣な意見
もありますし、応援もありますし、非常にそういった意味では、市民の方々が本当にこの指針に
対して非常に興味や関心が高いなというのを見て読ませていただいて感じたところでした。
またそれを今回の最終案素案にうまくまとめていただいたことに本当に感謝を申し上げる次第
です。

そういった中だからこそ、この基本的理念が、仙台らしいというところを表しているというところ
と、最終的にこの指針がうまく稼働して、仙台市の施策もそうですし、一般市民もそうですし、
我々のような企業においてもこの思いをしっかりと受け止めながら活動していく、そこにどうま
たつなげていくかというところが、この指針を作った後の大切なところなのかなというふうに
感じた次第でした。

感想をまず述べさせていただきます。

○大隅委員長

ありがとうございます。

続きましていかがでしょうか。

ビッティ委員お願いします。

○ビッティ委員

基本的に読みやすくてわかりやすい形になっていますので、変更するべきところなどは特に今
は思いつかないです。この数か月間の結果としてはすごく良い感じだと思います。

○大隅委員長

応援メッセージをありがとうございました。

いかがでしょうか。

田村委員。

○田村委員

コラムや文章表現については、事務局の皆さんと伴走というか、一緒に走ってきて、パブリックコメントも入ってきた段階で色々変更してきたところです。

先ほど宇田川委員からご指摘のあった図1の「所属」の位置ですけれども、意図としては、もちろん会社や学校といった所属は見えやすいものですが、人は色々なコミュニティに所属していますので、見えないものもありますし、複数の所属があるということもあって、あえてこの位置に置いたかなと記憶しております。よく使われているのは、表層と深層がパツと分かれていて、人の表面のところに並んでいるものと中に並んでいるものがあるのですが、今回、パブリックコメントを反映させて、グラデーションにして間に置いたという意図かと思っています。

それと図2の「社会におけるちがいの受け入れ方」が、小見出しと図2のタイトルにもなっておりまして、本文には確かに「組織や社会」という単語があるので、「組織や社会」に変更してもいいのかなと思いますが、先ほど宇田川委員からは、「社会」は先の方が良いのではというご意見がありました。私がよくこういう並びとして「組織」を先にするのは、小さい方から先に書くタイプなので、どちらでも良いと言えば良いのですが、例えば「人」が先で、「組織」で、最後「社会」かなと、そのような順番でいくと、「組織」が前でもいいのかなと思っています。

また、もしコラムに先ほどのジェンダード・イノベーションの話などを入れるのであれば、ユニバーサルデザインの10ページのところが、ちょっと写真が大きいので、ここに入れるのが適切ではないかなと思います。

「イカロスの墜落」のところは、同じような意図の仙台らしいものがあるのであれば、色々な属性、色々な視点で物を見ないと誰かが取りこぼされるということが伝われば、別にイカロスでなくても良いかなと思います。

あと最後、表紙ですが、せっかく色々ところでヘラルボニーさんのデザインを使っているのでしたら、もちろんお金が発生するかもしれませんが、何かこの表紙、裏表紙を違うデザインで、これはこのような意図でこのような人がデザインしたものですという意図で表紙を飾った方が良いのかなと思いました。

○大隅委員長

ありがとうございました。
大沼課長お願いします。

○大沼課長

表紙ですが、こちらは「まる」で構成しているところです。先日の仙台ダイバーシティフェスタ2024で実施したコンテンツの一つに、市民の皆様と「まる」を描く企画がありまして、本日も完成したアート作品を展示させていただいておりますが、こちらをご覧いただいてもわかるように、シンプルな「まる」にも、これだけ様々なものがあるというところで、一人一人のちがいを視覚的にわかりやすく表すことができたのではないかと感じているところでございます。

また、このイベントの中でも、他の人が書いた「まる」を見てそのアイデアを参考にしながら自分のアイデアを考えるというような姿もあり、まさに我々が大切にしたいダイバーシティの理念を、この「まる」を通じて皆さんに体験、体感していただけたのではないかと考えており、「まる」を象徴的なモチーフとして取り入れたものでございます。

様々な色を使っておりますけれども、こちらは指針の中の視点1から4と、共通で使っている4色と、杜の都・仙台のグリーンを全体の基調にしておりましたので、それらを組み合わせてデザイン化しているというところでございます。

○田村委員

こだわりがあるということが大変よくわかりました。それであれば、どこかにその意図を書いておいたほうが良いかなと思います。

○大隅委員長

せっかくなので、そのアート作品の写真も撮って、例えばどこかに使うとか、それこそ小さなコラムとか、この表紙の説明というところと少しリンクさせてできたりしたら素敵かもしれませんね。ありがとうございます。

私からも、先ほどから話題に出てきている図1や図2について、重ねて少しご指摘させていただきたいと思います。

この図1と図2だけ「図」というのがついていまして、そのあとに出てくるものは、タイトルも図の番号もない形ですので、どちらに統一するのが良いのかというところで、例えば「図1」とか「図2」をなくしてしまって、「右図」などにしてしまう書き方も検討できるのではないかと思います。

他にいかがでしょうか。

小宮委員お願いいたします。

○小宮委員

前回、これは誰に向けた指針なのかというところと、推進していく中心メンバーは誰なのかが不明確だなと思ったところは、最後17ページの推進体制のところと非常に明確になって、わかりやすくなったと思います。

この推進本部のところですけども、これ1段目と2段目は並列の関係で良いのでしょうか。下に長くなっている組織図の見方がよくわからなかったのですが、並列で良いのですよね。わかりました。

それとパブリックコメントの中にも、用語がわかりにくいという意見があって、この用語解説を入れていただいたのもすごく良いと思いますが、アルファベットも「あいうえお」で検索するか、アルファベットだけ出したほうがいいのか、ここがわからなかったので、確認させていただきます。

○大隅委員長

大変貴重なご指摘ありがとうございました。

小林委員いかがですか。

○小林委員

これまで発言していたことが本当に色々反映されて、素晴らしい指針としてまとまっているなと読んでいて率直に感じました。

12ページのところで2つ気になったことがありまして、この「掛け合わせによりイノベーションを生み出す」の1文目のところですが、これまでこういう書き方だったのに気づかなかっただけかもしれないのですが、「異なる分野を掛け合わせることで」と書いてあるのですが、どちらかというと、ここで言いたいのは、「多様な価値観を掛け合わせることで」とか何かそのような意味合いなのかなと思っておりまして、普通に「異なる分野を掛け合わせる」というと、単純なイノベーションの説明とあまり変わらない気がしたので、ここは検討をした方が良いのかなと思ったところです。

あとこの「掛け合わせ」の言葉の定義のところ、18ページ目にありますけれども、ここで書かれている表現だと「複数のものを合わせて1つにすること」という書き方になっているのですが、私の中のイメージでは、「掛け合わせ」というのは足し算的なものというより、掛け算的なイメージがありまして、この説明だと足し算的な響きに聞こえてしまうのと、もっと掛け合わせによって加速されるようなイメージを、何かうまく言葉にできないのかなと思ったところでしたので、可能であれば検討いただけるといいのかなと思いました。

○大隅委員長

ありがとうございました。

そうですね。足し算ではなくて掛け算で広がっていく、そんなイメージかなと私も思いました。
ビッティ委員をお願いします。

○ビッティ委員

今気が付いたのですが、やはり用語解説には、それぞれの言葉の隣に、どここのページに出てくるか書いた方が良いと思います。例えば「アクセス」は何ページとか、何回も出てもちろん1ページ、2ページとか書いたりした方が使いやすいと思います。

○大隅委員長

貴重なご意見ありがとうございました。
石井副委員長、お願いいたします。

○石井副委員長

何かあるかなと思って見ていましたけれども、もう、私からはないですね。
細かいことは皆さんから色々ありましたけれども、市としてこれを推進していくという思いとか気持ち伝わるような表現と構成になっているので良いと思っています。推進指針ですが、「ダイバーシティ」がどのようなことなのかを理解できるような、読んで容易に理解でき、勉強になるものなので、多くの方に読んでもらいたいと改めて思ったところです。
それ以上はありません。本当に素晴らしい成果だと思っています。

○大隅委員長

ありがとうございました。
田村委員をお願いします。

○田村委員

先ほど小林委員から発言のあった「掛け合わせ」の用語解説は、確かにこのままだとちょっと違うかなと思います。例えば、「複数のものを合わせて相乗的な効果を期待すること」みたいな表現だといいかと思います。

もう1点、この用語解説の19ページの「婦人参政権の芽生え」、これは本文では2ページの年表の1880年に出てくるのですが、ここだけ何となく違和感がありました。どうしたらいいのか私もわからないのですが、この19ページに出てくる「名取郡長町村会規則」、こちらを年表に書いた方が良くないかなという気がするのですが、「婦人参政権の芽生え」というのが年表の書きぶりとしてどうなのか、2ページの1880年、これもし長町の他にもいくつかあるのであれば、婦人参政権の芽生えとして長町などいくつかのところで男女ともに選挙権を与えたり、そのような動きがあったという解説だったらわかるのですが、これ1個だけなのであれば、これをそのまま年表に入れたほうが良いのかなと思います。

もう1つ、私も絵心がなくて、悩みつつ、どうしていいかわからないので、今日最後ですから、委員の皆さんのお知恵も拝借したら良いのではないかなと思うのは、14ページの多様性から生まれる好循環の図に関して、一周回って、次のところにだんだんスパイラルで上がって行って、居場所があって協働して交流して、だんだん良くなっていくというイメージを循環として描きたいのですが、もう少し何かいい方法がないかなと思っています。イノベーションが生まれてくる、先ほどのまさに掛け合わせのことを表現したいのだけれども、この平面の矢印だと、うまく表現できていないなという不完全燃焼感がございまして、どのようにしたらこの図が、居場所があって協働して交流したらイノベーションが生まれるという図になるのかというところを、もうひと工夫したいなという気がしております。

○大隅委員長

難しいですね。14ページの図というのはとても大事な図だと思いますので、もうちょっと何と

か頑張れるといいですね。
小林委員どうぞ。

○小林委員

今の図のところなのですけれども、私も何だかすごくわかりづらいなと思いながら見ていたのですが、私も絵のイメージが今あるわけではないのですが、わかりづらいと思う要素の1つとしては、「イノベーション」が色々な矢印が出ているところに違和感があるような気がしています。パッと見たときに、トルネード的なイメージで、どんどん循環していつて上に上がっていく、より上に行く際に横に広がっていくってことがイノベーションの広がりみたいなのをイメージしているのかなと思ったのに対して、何かいろんな方向にイノベーションが出てきているのがわかりづらいなと思いました。

私も前回発言して、多分それでこういうものも入れてくださったのかなと思うのですが、この絵の要素として入ったら良いなと思うのは、居場所があって、そこで交流が起きて、イノベーションが生まれて広がっていきますと、それでまた人がどんどん入ってきて、またイノベーションが起きていくっていう、人が増えていくような矢印とか、そういうものが、もしかしたらあってもいいのかなと思いました。

○大隅委員長

ありがとうございます。

チャット GPT に聞いてみるというのも良いかもしれませんね。そのまま使うという意味ではなく、アイデア出しみたいなのところで使えるということもあるかなと思いました。

人口流出が他の地域よりも、もしかすると進みがちである東北地方において、やはり人が入ってくるということはとても大事な事かなと、今ご意見を伺って感じました。

ビッティ委員どうぞ。

○ビッティ委員

「イカロスの墜落」を使用する場合は、作者がどこの人かと、誕生した年と死去した年を入れた方が良いと思います。

○大隅委員長

ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

そうしましたら、1時間近くになって参りましたので、まずここで一度筒井局長からコメントいただくということでいかがでしょうか。

○筒井ダイバーシティ推進担当局長

皆様、本当に細かいところまでたくさん見ていただきまして、ありがとうございました。

先ほど福田委員もおっしゃっていましたが、パブリックコメントを約 100 件いただいたということで、とても多くいただけたと思っております。それは、仙台がこれまで市民協働を一生懸命やってきましたけれど、その中で市民の皆さんがよく市政のことを見てくださっていることや、一緒にやっていく中で、市政に目を向けてくださっているというところで、今回多くのご意見をいただけたと思っております。

それから指針の基本理念にも当事者の声を聞くというところを入れましたけれども、そのような意味でも、当事者である市民の皆さんの意見を直接聞く 1 つの機会になったということで、パブリックコメントがすごく有意義なものになったと思っております。

ただ、これが全部の声ではないので、これからも当事者の皆さんの意見を直接私たちが聞いて、それを政策に生かしていくことをしっかりやっていかななくてはいけないと改めて思っているところでもあります。

修正箇所につきましては、確かに直せるなど、直したほうがいいなと思うところが多くありましたので、この後は少しメールやお電話などでやりとりをさせていただいて、趣旨をご確認させていただきながら、最終案に向けて作業を進めてさせていただきたいと思います。

図につきましては、本当に何回も書き直しているのですが、私たちもどうも腑に落ちていないところがありまして、良い案やヒントをいただけたらなと思っております。

まだ最終版をリリースするまでに少し時間がありますので、もしお正月の間に閃いたことなどがありましたら、教えていただければと思っております。

表紙につきましては、ヘラルボニーさんのアート作品を使わせていただければ、こんなにうれしいことはないのですが、権利の関係やお金のこととかで難しいところがあるかなと思います。仙台ダイバーシティフェスタ 2024 で企画したまるを描くイベントは、アンケートでも皆さんから、ただまるを描くだけなのに、こんなに面白いし、こんなにみんな違うのだということがわかりましたという声をいただきました。まるを描くだけのシンプルなことですが、すごく盛り上がりましましたし、深く考えさせられましたので、私たちもそれにインスパイアされて、今回そのまるをテーマに表紙にしたところです。

写真を入れられるかどうかは、スペースの問題もありますので、写真を増やすかどうかということも含めて少し検討させていただきたいと思います。

最初は影も形もなかった指針が、ここまでまとまって何とか出せるようなところまでできたのは、委員の皆様のおかげだなと思っております。本当にありがとうございました。

あと少しのところまでできていますので、この先も少しご協力をいただきまして、最終的に 3 月末の策定にもってまいりたいと思っております。

○大隅委員長

ありがとうございました。

今の筒井局長のコメントも踏まえて、さらに、これまでの会議の振り返り等々で何かご発言いただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

小野委員いかがですか。

○小野委員

ありがとうございます。

今回、私もパブリックコメントでいただいていたコメントの中でちょっと気づかされたところが、市民にとってどんな意味があるのか明確にして欲しいとの旨のご意見でした。私たちも確かに障害や福祉で啓発活動に近いようなことを行う場合も、一方向的なメッセージになってしまうと、どうしても誰かが提唱した価値観を正しさとして押し付けられているように感じられてしまうでしょうし、そういったことは本質的な浸透が非常に難しいアプローチだなという悩みながら活動しております。そういったコメントを受けて指針の中でも、前半の方にダイバーシティの効果として、安心して住み続けられ、活躍できる環境が醸成されると考えられますといった文章も書き加えてくださってありがとうございましたけれども、私としては、そういった何のために行うのか、どういった社会が仙台市にとっては理想的なのかと言ったこと、それ自体に 100% 正解があるというよりは、その対話を市民の方々と続けること自体がすごく価値のあることなのではないかなと、この会議を通じて非常に感じたところでした。

あともう 1 点、11 月に開催された仙台ダイバーシティフェスタ 2024 に弊社も関わらせていただきましたけれども、やはり啓発とか伝えることよりも、参加いただいた方に、自ら体験を通じて、気が付くという体験をしてもらうことが実はすごく大切であり、私たちも活動して途中で最も効果的なことのような気がしております。

今回の指針が素晴らしい皆さんのご意見の中で、たくさんブラッシュアップされて、今でき上がりますけれども、こういったことをベースとしつつ、1 人でも多くの市民の方と、例えばリアルな場であったり、一人ひとりが自発的に感じられるような、そういったコミュニティづくりであったりとか働きかけといったところを、1 歩 1 歩行っていくことが実はすごく遠回りのよう

で、効果があるようなことだと感じております。

仙台ダイバーシティフェスタ 2024 のアンケートも非常に良い結果をいただきましたし、社内でもこういうことが実際にやりたかったと担当者からも声をいただいておりますので、そういった取り組みをぜひ継続的に一緒にできることもあれば、一緒にさせていただきつつ進めていけると、すごく未来が明るいのかなと感じました。

ありがとうございました。

○大隅委員長

小野委員ありがとうございました。

及川委員、お願いいたします。

○及川委員

皆様からお話があった好循環の図の話と、コラムの話を考えていたのですが、私が第1回目のこの会議にきた日に、仙台のまち中で音楽祭をやっていました。障害のある方とか、いろんな方が一緒に音楽を奏でるというのが、まち中でやられている姿をみて、仙台はすごいなとも思っていて、そこを市長が声をかけながら、お話をされて通っている姿が、1つのコラムになるのかもと思いました。仙台でやられている多様性から生まれる好循環ってこういうことだなと思いました。それを入れてくださいということではないですが、先ほどから言っている仙台らしさということには、仙台で今実際にやられていて、仙台市では当たり前になっている事が、私のようにちょっと違うところから来ると、すごいと思うことが多分あるのだろうと思います。そのような仙台で行われていることが少しでも入っていることで、未来の1つの足がかりになるのかなと思いながら、お話を伺っておりました。今やられていることをこの中に組み込んでいくことも、コラムとかイラストとか、あるいは写真とかでもいいと思うのですが、皆さんがこれ自分ごと化しやすい1つの方策なのかなと思いました。

○大隅委員長

及川委員ありがとうございました。

たしかにコラムは、海外の事例もいいですが、実際に仙台市民のこのような取り組みから、もうすでにこのダイバーシティを推進していることに改めて気づいていただくということも大事かもしれません。

貴重なご意見ありがとうございました。

では反時計回りでいきたいと思いますので、小林委員お願いします。

○小林委員

まず改めて本当にこのような場に参加できてとてもよかったなと思っておりますし、本当にこのような重要な指針の策定に携わることができて大変に光栄にしております。

私自身も本当に多様な視点、価値観というのを、このメンバーの中でも感じました。指針の細かい文言も含めて、こういう受け取り方もあるのか、こういう見方をするのかなど、色々学びになることが多かったなと思っております。

この視点、指針というのは、やはりスタート地点だと思っています。これから指針をもとに施策を作っていく、さらにはそれを市民の方々に受け入れていただいて、それがダイバーシティに繋がっていくということが、これから重要だと思っています。私自身もそういった視点で取り組んでいきたいなと思っていますし、我々も仙台発のスタートアップとしてダイバーシティの推進事例となれるように、そして掛け合わせのページのところにもたくさんスタートアップやイノベーションと書かれていますので、その代表例となれるようにしっかり取り組んでいきたいなと改めて気合いが入ったところでございました。

これからもこの指針をしっかりといろんな人に向けて私自身も発信していく役割を担って、どんどん動いていけたらいいなと思っております。

○大隅委員長

小林委員ありがとうございました。

ぜひ発信していただけたらと思っていますし、また、スタートアップ企業としてこれから更に発展されることを大変心待ちにしております。

では小宮委員をお願いします。

○小宮委員

本当にこのような機会いただきましてありがとうございました。

私は仙台に来て 3 年目ということで、民間企業の支社ということで、参っております。

仙台に来た頃は、違和感を非常に強く感じていて、集まると、ここが変だよねと言っていることが多かったのですが、今回このような機会をいただいて、この違和感みたいなものをどうちがいで表現したり、それを面白くしたり、気持ちよくしていくことが必要なのだろうと考えさせられる機会となりました。自分の中でくすぶっているだけではなくて、このような視点をいただけたことは、ありがたいなと思います。

私は民間企業なので、その立場からお話しさせていただくと、やはり集まると、半分は出張者・転勤者であり、半分は地元の方であるような場なので、非常にみんなが自分ごととして考えられる土壌はあると思っています。こういった場での発信が、すべての人にどう今後は行き渡っていくのかということを感じながらやっていただけたら、さらに良いなと思っていますし、私もその視点で頑張っていきたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

○大隅委員長

小宮委員ありがとうございました。

田村委員をお願いします。

○田村委員

指針の 4 ページの市民協働の歴史の中に、「1999 年には全国初の公設民営の市民活動サポートセンターを設置し」という記載がありますが、このあたりから私は定期的に仙台に伺っていました。1 回目の会議でも話した、せんだい・みやぎ NPO センターの取り組みなどに関わってきました、やはり仙台は奥深いなと思っておりました。今回この委員会に関わらせていただいて、仙台は面白いなと改めて思った次第です。

インクルーシブグロースという OECD の考え方が 1 つ、この指針の柱になっていると思うのですが、パブリックコメントにも出ていたポジティブとネガティブの両方の色々な意見を見まして、いろんな人が来ると成長することはそうなのですが、成長するために、いろんな人を呼ぶのかっていうと、そうではないなと思います。また、成長ということより持続可能な社会という方が自分の中ではしっくりきています。つまり排他的な社会は続かないところを、今後、このダイバーシティを推進していくことの重要性を言えば言うほど、マジョリティの不安が高まるような発信の仕方はしないようにしなきゃいけない。女性の管理職を増やす話をすると、男性は管理職になれないじゃないかと不安に思ってしまう。外国人を入れようという話になると日本人は失業するのではないかと思ってしまう。そのようなマジョリティ側の根拠のない不安を払拭することが必要で、インクルーシブグロースを言いすぎると、何で新しい人が来て成長するのか、そうすると今いる人は、逆に排除されるのではないかと不安を感じてしまう。そこが、これまで 20 年、30 年ダイバーシティを進めてきた人たちが、今、何かこれまでのやり方を変えなきゃいけない曲がり角だと常々思っておりまして、今回皆さんと一緒に考えて、非常にいいものになったと思います。

これからは、例えばデータブックの中でも、誰もが安心して住み続け活躍できるまちのところの KPI、いわゆるマジョリティの人の意識調査のところの項目を重視した方がいいのかなと思い

ます。どうしても分野別のそれぞれのところでどれくらいインクルーシブな仙台になっているのかということを追いかけていかなければならないのですが、それはもちろん大事なことです。市民意識がエクスクルーシブになっていないかと、排他的な方に行っていないかということを確認するということも非常に重要で、そこが実は成否を分けるのではないかなと思います。マイノリティの人たちが排除されない社会を作っていく。その様子を確認すると同時に、仙台というまちが排他的にならないようなマジョリティの側が不安な気持ちを膨らませないような、そのような推進の仕方が重要で、その確認をちゃんと KPI 取っていくということが、とても大事ではないかと、このパブリックコメントを見て改めて思った次第です。これからこの指針がうまく活用されて、さらに仙台が豊かで面白いまちになっていけばいいなと思っております。

○大隅委員長

ビッティ委員をお願いします。

○ビッティ委員

まず、すてきな会議に参加させていただき、ありがとうございました。

本当にいろいろ勉強になりましたし、私の意見は役に立ったかどうか分かりませんが、仙台に住んでいる外国人の 1 人の代表者として、ここまでやってきました。

基本的にはこれまで差別を感じたことないので、やっぱり仙台は前回も言ったように、もう自分の DNA に刻まれていると感じました。

今のオーバーツーリズムの時代では、これからどんどん仙台にも海外の人たちが来るので、そのための準備も必要だと思います。

しっかり受け入れる準備を整えることで、心だけではなく、まちとして外国人のお客さんや学生からのニーズに対応できるようになったらすごく成功すると思います。

そして今回のプロジェクト自体は、仙台市民にとってもすごく大事だと思いますし、外国人にとってもすごく大事なもので、これから英語版も楽しみにしています。

それと、指針が 3 月までにできればいいなと思いますけど、1 度指針が公開されたら、このまま終わりではなくて、その先も市民にとっての大事なものになるように、これからは頑張りたいです。これからは仙台の歴史が市民の DNA として受け継がれていくと思うので、絶対できると思います。

以上です。ありがとうございました。

○大隅委員長

ビッティ委員ありがとうございました。

大変力強いお言葉ありがとうございました。

続きまして福田委員をお願いいたします。

○福田委員

全 4 回の会議、本当にありがとうございました。

私自身、委員の就任要請を事務局であるまちづくり政策局からいただいたとき、本当に余計なことを言うので、私は委員としてふさわしくないと思いますと事前に何度もお話ししたのですが、本当にこの委員会に参加できてよかったなと感じています。

自分自身も企業を運営する中で、様々な視点を持って取り組んでおりますが、この 4 回、皆様方とお話をさせていただく中で、私自身が本当に気づかされることが多々ありました。こうやって出来上がってきた指針の中で、仙台の歴史を改めて気づかされると同時に仙台だからこそ、このようなことができるのではないかなということ、本当に考える機会になったなと思っております。

私は本当に仙台というまち自体が大好きなので、先ほど冒頭に言ったパブリックコメントにつ

いても、多分皆さん、仙台が大好きだろうと思います。だからこそ熱い思いを持って、長文の読みづらいコメントもあったのかなと思います。ただ、皆さんがこの仙台というまちがさらに発展する基礎としてこの指針ができることをすごく期待しているのだと思っており、私自身もこの指針ができて終わりではなくて、これをやはりどうやって、もちろん行政もそうですが大学であったり我々のような民間企業であったり市民であったり、この指針に沿ってどうやって実行に移していくかが大切かなと思っています。私も微力ですけれども、周りの様々な企業さんと一緒にこの指針を理解しながら前に進めていければと考えさせる、そんな時間でした。本当にありがとうございました。

○大隅委員長

ありがとうございました。

では、本図委員お願いいたします。

○本図委員

私もこの会議に参加させていただき、大変勉強になりましたし、それぞれの場所でご活躍されている皆様と同席させていただいたこと、本当に光栄で貴重な時間でした。大学に戻りまして、学生たちにも、この指針をしっかり読んでもらいたい。

教員になっていく学生たちにしっかり理解して欲しい。そのように感じる質の高いものをお作りいただいたなと思います。ありがとうございます。

私は、所属、属性から言えば、中等教育以下のところの教育の代表というところで、ここに会議の委員として参加させていただいているのですが、仙台は高校が専門高校から普通高校まであり、市立高校もあり、これらは財産だと思います。これまでの会議でも申し上げたと思いますが、高校でも小中学校でも総合的な時間や探究の時間、義務教育であれば道徳の時間にすでにダイバーシティという多様な視点で人々とどう共生社会を作っていくかということはずっと取り組んでいるところでございます。改めて、ぜひ、仙台の財産である高校生とともに、ダイバーシティというのは、本当にまちに活力をもたらすのか、今自分たちがやっている探究をこの観点から、すでにやっていることを、このダイバーシティという点で、もう一度価値づけしてもらいたいと思います。そして、学校現場でも、子供たちを通して、保護者、地域に伝わっていく、そんな取り組みもぜひお考えいただきたいと思います。

教育現場は多忙ですので、教育局に伝えていただくときに、新たにではなく、すでにやっていたところを価値づけすることにおいて、お声がけいただきたいと思います。

もう1つ well-being についても申し上げたかと思いますが、OECD の推進している大きな柱です。仙台市長も OECD で講演されていますが、引き続き OECD 諸国に発信できる仙台市になっていただきたいなと思います。先ほど委員からも、これで終わりではなく、これからどうやっていくかというご発言がございましたが、well-being はハピネスと違って、幸せを追い求めていく自分たちの姿のことだと思いますので、このダイバーシティと合わせて、KPI を作られるようなときも、今何かを達成しているのではなく、今みんなで共生社会、多様性の重視、包摂ということをやっているのか、さらに、あなたはそれをどうやろうとしているのかということ、役所だけではなく、市民も一緒にできるような支援、そのような視点でも KPI を作っていただきたいなと思います。役所がやればいいのかではなく、子供たち、私達も含めて、多様な視点で共生社会を作っていく。それが活力になっていく。そんなことを引き続き KPI とともに追求できたらなと思っております。

本当にありがとうございました。

○大隅委員長

ありがとうございました。

本日欠席のマリ委員から事前に事務局あてにコメントをいただいているようでしたので、ここでご紹介できればと思います。よろしくお願いします。

○山口企画推進係長

マリ委員から事前にコメントを頂戴していますので、代読させていただきます。

この最終かつ重要な委員会に出席できず、誠に申し訳なく思います。

この委員会に参加できたことを光栄に思います。

10年以上仙台市に居住する外国人として、仙台の生活を大変気に入っており、非常に快適なまちであると感じています。

また、仙台市が多様な人々を引きつけ、彼らが住み続けたい、働きたいと思うような都市づくりを進めるなど、将来の多様性への対応に力を入れていることに感銘を受けています。

今後、この目標に向かって進むために重要な効果的な方法が3つあると思います。

1つ目。多様な人々や彼らの生活ニーズをサポートする最先端の社会政策、行政政策を打ち出す。

例えば、障害者、車椅子利用者、視覚障害者、聴覚障害者へのアクセス、同性パートナーの権利平等にサポートする政策、働く女性の育児支援の確保、多言語での情報提供など、外国人の若者にとっては、これの政策が直接的に影響を与えることはなくても、現在の国際的な考えに沿った政策によって、すべての住民がサポートされる都市に住むことは、仙台より魅力的な場所にするでしょう。

2つ目。小学校から教育方法に多様性と包括性をより強く取り入れること。

3つ目。フォーカスグループディスカッションを行い、仙台市に最近移住してきた人々、日本語を話せない人々、障害者など、より多様な仙台市民からフィードバックを収集する。

この委員会は、様々な視点や経験を代表していましたが、仙台市の将来の多様な人口構成をターゲットにした人々のニーズを直接聞くことで、さらに重要なフィードバックが得られる可能性があります。

ありがとうございました。

以上でございます。

○大隅委員長

はい。どうもありがとうございました。

では、石井副委員長お願いします。

○石井副委員長

仙台市の非常に大きな1歩を踏み出すこの場に加えていただいて、様々な意見を述べさせていただきました。皆さんの意見を伺いながら自身での理解を深める場にもなりましたことに対して、本当にお礼申し上げたいと思います。

ダイバーシティは、何か「新しいこと」をやろうとしていると捉えられがちですが、実はそうではなくて、もともと社会とはそういうものだったのだと思います。様々な人がいて、そこには垣根もない社会が本来はありました。実は現代社会の中で、「制度」が作られれば作られるほど、高齢者や障害者、子どもといった属性ごとに各種制度が確立されていけばいくほど、それぞれの繋がりがなくなっていき、互いに、また他者に無関心でも社会は動くような、ある意味では効率的にうまく回るような仕組みになっていった、その結果が「ダイバーシティ」ではない社会なのだと思います。そのような観点から見ると、「ダイバーシティ」って何の意味があるのか、ということと言う人もいるかもしれませんが、そういうことではなくて、社会とは本来このような姿だったのだ、と考えさせるようなことになればいいなと思っています。失ったものを取り戻すプロセスでもあります。ダイバーシティを推進していく上で仙台市の組織の中で、縦割りで様々なことをやってきた、そのやり方ではダイバーシティの実現は無理ですね。横の繋がりを作りながら、そのような組織にしながら考えていくことがこの推進ではすごく大事だと思いますし、そのようになっていくことを強く期待します。このようなことを改めて考えさせられた会議でした。

もう一つ、他都市の話をしていただきます。ダイバーシティとは直接関係はないのですが、認知症のある人のための環境について研究している中で、福岡市に行ってきました。福岡市はこ

れまで「認知症にやさしいまちづくり」に本気で取り組んでいます。例えば市内の小中学生のある学年には全児童・生徒に認知症の人へのコミュニケーションの取り方(ユマニチュード)の講義をしています。全員がそれを学んで、卒業して大人になっていきます。もう1つ、さらに大切だと思ったのは、市として「認知症フレンドリーセンター」という場所を作っています。そこには、福岡市の取り組みが見える形で展示されています。また当事者も含めて様々な人が集まってコミュニケーションがとれる場所もあります。市の姿勢、取り組み、実際の活動が見せる場所があって良いなと思いました。つまり、文字で書いたり文章で示したりすることはできますが、それを姿・形として見せていくことも大事なんです。仙台市もこのような取り組みがわかる場所(空間)をどこかに、小規模でもいいので、作っていったら良いのではないかなと思います。それが、少しずつ大きくなって行って、さまざまな人が集まる場になっていくことも期待されます。「居場所づくり」という話もありましたが、空間として、場所として、仙台市の思いを体現するようなものが設けられたら、素晴らしいと思いました。やるからには仙台市すごいな、本気だな、ということをも市民の皆さんが、また仙台に来た方が感じて、また見えるような形になってもらいたいなと思います。

本当にありがとうございました。

○大隅委員長

私も最後に一言述べさせていただきたいと思います。

私は、東北大学の男女共同参画という委員会等から始まり、これまで20年ほど、学内のダイバーシティ推進に取り組んで参りましたが、今回ご縁がありましてお声がけいただき、委員長という役目を仰せつかりましたこと、大変貴重な経験をさせていただいたと思っています。

学内のダイバーシティの推進について話しているときよりもさらに多様なステークホルダーといえますか、皆様のご意見を伺う大変貴重な機会で、私にとってもたくさんの学びのある4回の会議だったなと思っています。

最後に石井副委員長から居場所の話がありましたが、いつでもみんなが集まれる場所があると良いのかなと思っています。

これから指針が出て、市役所内の色々な部署でダイバーシティを推進していく中で、横串を刺す仕組みがあるといいのかなと思いました。

東北大学の中には最近キャンパス内に、DEI ラウンジというものを作りました。月に1回水曜日の10時から16時の時間帯で、DEIの職員、教員が対応しますが、何らかの気持ちを持っている人が、誰でも気軽に来て、安心して語り合うことができる場所となっています。

本当に委員長としてはこんな楽な会議はなかったというぐらい皆様が大変素晴らしいご意見を毎回出してくださいましたし、田村委員には、様々な形でお世話になりました。ありがとうございました。

また、石井副委員長にも、いろいろな形で見ていただきましたし、私自身も本当に嬉しいことだと思っています。

会議は今回で最後となりますが、指針が出るのが3月ということで、もしかすると、少し聞き取り等のご確認を仙台市からさせていただくこともあるかもしれませんが、最後に指針が出て終わりではなく、またそのあと、どのようになっていくかということも、ぜひ委員の皆様にも見守っていただけたらと委員長としては思っています。

本当に皆様ありがとうございました。

○山口企画推進係長

皆様、長時間にわたりご議論ありがとうございました。

以上をもちまして、第4回仙台市ダイバーシティ推進会議を閉会させていただきます。

大変お疲れ様でございました。